

共生

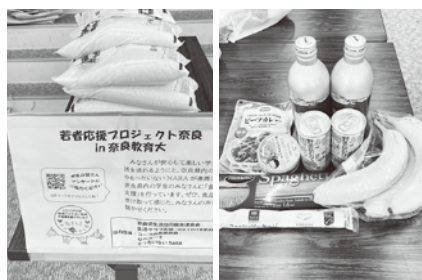
奈良県生協連

2025年10月

NO.138



第36期臨時総会



若者応援プロジェクト奈良2025
奈良教育大学フードパントリー



こども食堂ネットワーク総会・交流会

もくじ

第36期臨時総会……………	1	おじゃましました～ならコープの巻……	6
退任・就任のご挨拶……………	2	奈良県生協連 平和の取り組み……………	7
若者応援プロジェクト奈良2025 奈良教育大…	3	Peace Now! 奈良……………	8
理事長交流会／赤い羽根共同募金／		なら小地域福祉活動サミット……………	9
近畿地区生協・行政合同会議……………	4	こども食堂ネットワーク総会・交流会／	
つながる力で笑顔アクション交流会inいしかわ…	5	奈良県消費生活フェア……………	10

奈良県生活協同組合連合会 第36期臨時総会開催

9月18日アクティ奈良で第36期臨時総会を開催しました。奈良県生協連監事に就任いただいていた奈良県労働者共済生活協同組合 岩崎正孝監事が退任され、奈良県生協連の監事が欠員となりました。それに伴い新たに監事を選任するため臨時総会が開催されました。岩崎さんは2024年10月より県連活動の推進に多大なる貢献をいただきました。ありがとうございました。

当日は、代議員27名に対して、会場出席3名、書面議決24名での開催となり、新たに監事として、奈良県労働者共済生活協同組合の平本義陽氏が賛成多数により選任されました。



議案

第1号議案 役員補充専任の件

退任・就任のご挨拶

このたび開催されました臨時総会および6月28日開催の通常総会において、監事ならびに理事の役員改選が行われました。これまで奈良県生協連の運営に多大なるご尽力を賜りました退任役員の皆様に、心より感謝申し上げますとともに、新たに就任された方々には、今後のさらなるご活躍を期待しております。

退任のご挨拶

奈良県労働者共済生活協同組合 岩崎 正孝

この度、奈良県生協連監事を退任いたしました。昨年、監事に就任し、1年間という短い期間ではありましたが、皆様には本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。1年間、監事という立場から奈良県生協連の活動を見てきましたが、各生協組織が組合員のためにという思いを一つに日々の活動が進められていると感じ、温かい組織だなというのが印象に残っています。

私自身、昨年の就任時には「社会から求められる活動とは何なのか?」を意識して活動すると挨拶で書かせていただきました。この1年を振り返るだけでも、豪雨や地震といった災害、米の価格高騰による食料問題、世界各地での戦争や紛争といった争いが大きなニュースとなり、すべてにおいて生協の活動に関連するものであると実感しました。1年前であればそれぞれのニュースを見ても、大変そうだなとどこか他人事のように考えてしまっていたのですが、何かできることはないかと今は考えることができるようになり、自分自身が人間として成長することができたなと感じています。

これからは一組合員となりますが、今後も生協の良さを広める活動を微力ながら継続し、人と人がつながり、「共生」が実現される社会を目指していきたいと思います。

1年間本当にお世話になりました。



前市民生活協同組合ならコープ監事 金光 結香

監事として出席した会議で聞く各生協の報告は興味深いものでした。暮らしに寄り添う様々な活動があることを知り、協同組合の可能性を感じワクワクしました。貴重な時間を持てたことに感謝いたします。奈良県生活協同組合連合会の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



退任のご挨拶

前奈良女子大学生活協同組合 専務理事 藤本 隼平



奈良県立大学を卒業して、12年ぶりに奈良の地に來たのが2022年5月でした。その時期はまだコロナの影響が尾を引いており、大学のキャンパス環境もまだオンラインと対面の状況でした。

大学生協も事業環境としては非常に厳しい状況にあるなかで、僕自身初めての専務理事という任務、初めての兼任専務というなかなか大変な役割を任されましたが、当時はどちらかというと楽観的に引き受けてしまったというのが本音です。のちにこんなに大変なのか、ということを目の当たりにして、力不足を痛感する毎日でした。

そんな中でも、頼りない僕を支えてくれた人がたくさんいたからこそ、何とかあった3年間でした。店長を含め、理事会、パートさん、学生バイト、学生委員会、奈良県連の皆さまに本当にたくさん助けられました。

私生活では、在任中に第2子が生まれたのですが、もうその時の記憶はほとんどありません。

これから新専務が生協にかかわる皆さんとともに、奈良女・奈教両生協の経営再建と活気のあるキャンパスを作り上げてくれると思います。現在は、同志社生協の食堂部で勤務しておりますが、奈良県生協連の活躍を応援しております。3年間、本当にありがとうございました。

就任のご挨拶

奈良県労働者共済生活協同組合 監事 平本 義陽



この度、監事に就任いたしました、奈良県労働者共済生活協同組合監事で、シャープ労働組合奈良・天理・葛城地域協議会奈良地区の平本義陽と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は技術者として社会人生活をスタートしましたが、当時は労働組合役員になるとは夢にも思っていませんでした。これまでいろいろな経験の機会がありましたが、今回新たな役割をいただくにあたり、まだまだ自分の知らないことが数多くあることを実感しています。労働組合役員として組合員の団結により労働条件を維持改善し、働く者の経済的、社会的地位の向上をはかる活動を行ってきました。これからは、さらに視野を広げ学び続ける必要があると考えています。奈良県生活協同組合連合会のめざす、「協同精神が息づく安心安全な暮らし・地域づくり」の実現に向け、自分に何ができるのかを考え、学びながら精一杯務めさせていただきます。至らない点が多々あると存じますが、会員生協ならびに関係団体の皆様のご指導ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。



市民生活協同組合ならコープ 監事 中西 京美

今年度より監事の重責を賜りました奈良県生活協同組合連合会 組合員監事の中西京美と申します。

長男の誕生を機にならコープの組合員になりましたので、そろそろ四十年になります。実家の母が組合員でしたので、アトピー体質で誕生した孫の為に添加物の少ないコープ商品を買ってくださったのが私とならコープの出会いでした。

食品から生活雑貨・日用品に至るまで毎日の必要なものを殆ど共同購入で調達していただいていたので、先のインシデントの時には冷凍庫が空っぽになり、いかにコープの商品が毎日の食卓に欠かせないものであったかを痛感しました。長年色々な活動を経験しましたが、組合員監事になって改めて知る事が予想以上に多く日々勉強の毎日です。

組合員監事になった二年前に初めて奈良県生協連の総会に出席する機会をえまして、大学生協の若者の素晴らしい発表と、パワーに感銘を受けました。自分の為だけではなく、同じキャンパスで学ぶ多くの人の為に考え動く若者たちを頼もしく感じ、将来の成長を期待せずにはいられませんでした。

共に学び、支え合い、共に生きる、まさに『共生』の姿だと感じます。

奈良県生協連のことも、今迄知りえなかったことが沢山ありますので事務局はじめ長年活動されてきた他生協の皆様にもお力を借りながら、健全な事業運営に少しでも寄与できるよう力を尽くしたいと存じます。まだまだ未熟ではございますがどうぞよろしくお願い申し上げます。

若者応援プロジェクト奈良2025

奈良教育大学フードパントリー



7月29日奈良教育大学 学生会館山田ホールで、奈良県生協連の若者応援プロジェクト奈良2025の2回目の活動として、フードパントリーを実施しました。

政府が備蓄米を放出した後でも、米が手に入りにくく、あっても手が届きにくい状況の中でした。白米5kg入り21袋は下宿生や寮生優先とし、食材の詰め合わせを100名分用意して、学生さんに配布しましたが、先着順のため、開始から20分ほどで終了してしまいました。

今回の白米は、7月11日に納入されたもので、生活クラブ生協の組合員さんによる「おふくわけ活動」として困っている学生さんのためにと寄付してくださった白米5kg入り21袋です。また、コープ自然派奈良さんからは、炭酸水(216本)と野菜ジュース(210本)を、もったいないNARAさんからはならコープのバナナ120房の寄付をいただきました。学生さんに手伝いの声をかけたところ、2名の学生さんが来て袋詰めや受付を手伝ってくださいました。今回もアンケートから物価高騰で学生さんたちが困っている実態が分かりました。



配布した食品等

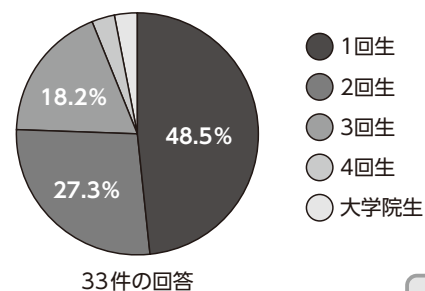
白米 5kg…………… 21袋 (生活クラブ生協) 下宿生・寮生優先

- ① 炭酸水…………… 216本 (コープ自然派奈良提供)
- ② 野菜ジュース…………… 210本 (コープ自然派奈良提供)
- ③ レトルトカレー…………… 100袋 (奈良県生協連購入)
- ④ スパゲティ 300g…………… 100袋 (奈良県生協連購入)
- ⑤ ツナ缶…………… 100缶 (奈良県生協連購入)
- ⑥ フィッシュソーセージ… 100本 (奈良県生協連購入)
- ⑦ バナナ…………… 120房 (もったいないNARA)

- ⑧ 生活雑貨(洗剤、雑貨品、日用品など)(ならコープ提供)
ほしいものを必要な方にお持ち帰りいただきました。



あなたは何回生ですか



苦しくなった理由 (学生アンケート)

- ① 生活費が上がった…………… 76%
- ② アルバイト収入が減った…… 24%

感想



直ぐに受付は終了

●お米やパスタ、レトルト食品など本当に助かります! 雑貨でお鍋も貰えました。
物価高の影響でお米を我慢する日々でしたが、勇気が貰えました。

●食費が上がりがすぎてご飯を一食ぬこうか、悩んでいたところだったので非常に助かった。
もっと消費期限ギリギリなものでもいいので回数を増やして欲しいと思った。

●実習や試験の影響でバイトが難しい状況なので、助かりました。

●大学生にとって、食費が少しでも減ることはとても助かると思います。
保存が利く食品を多くくださったので、夏場でも安心して食べることができます。
お米を配ってくださった方が、「がんばってください」と言ってくださり、とても嬉しかったです。

奈良県生協連 理事長交流会が 開催されました



9月18日、奈良県生協連理事会・臨時総会終了後にやまと庵近鉄奈良駅前店で2025年度 会員生協の理事長交流会を開催しました。9つの会員生協から理事長や役員など26名が参加し、交流と親睦を深めました。

この交流会は年に一度開催されており、会員生協の理事長や奈良県生協連の理事・監事が集まる貴重な機会です。会員生協で理事長や役員・監事の交代があったこともあり、新任と現任の役員が顔を合わせ、親しく交流を深める機会となりました。

開会にあたり、森会長のご挨拶に続いて逸見名誉会長から、奈良県生協連の設立に尽力された瀧川名誉会長のご逝去に触れられ、「設立当初の思いを、みんなで大切に受け継いでほしい」とのお話がありました。その思いを共有しながら、乾杯のご発声がありました。

その後は、各会員生協の理事長や新任理事・監事の皆さんから近況報告や抱負などが語られ、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。今後もこうした交流を通じて、生協間の連携を深め、奈良県内の地域づくりに貢献していきます。

赤い羽根共同募金運動が始まります(10月1日～3月31日)

9月18日奈良県生協連 理事会に先だち奈良県共同募金会の金剛 真紀常務理事・事務局長が来訪され、赤い羽根共同募金へ協力を呼びかけられました。

「今年度の奈良県における赤い羽根共同募金運動のテーマは、『つながりをたやさず支えあう社会づくり』です。寄せられた募金は、高齢者を地域で見守る活動や、障害のある人が働く事業所への支援、ボランティアの育成、子どもたちへの福祉教育など、みなさんの住む市町村内での福祉活動に広く活用されています。」と話されました。奈良県生協連でも2021年コロナ禍に始まった「若者応援プロジェクト奈良」で、赤い羽根共同募金の助成を2年に渡り受け、多くの学生への食糧支援をさせていただくことができました。

赤い羽根共同募金は、毎年10月1日から3月31日まで全国一斉に募金が行われます。奈良県では「赤い羽根募金奈良県び〜すぺ〜すプロジェクト」として、奈良県内の地域課題を解決する活動に取り組む団体を直接応援できる募金も行われています。



金剛 真紀常務理事・事務局長

第36回近畿地区生協・行政合同会議

8月20日、第36回近畿地区生協・行政合同会議が都ホテル大阪天王寺で開催されました。

この会議は、地域住民の安全・安心な暮らしを支えるため、生協と行政のパートナーシップを深めることを目的に、奈良・和歌山・兵庫・京都・大阪・滋賀・福井の近畿2府5県の府県生協連合会で構成する「近畿地区生協府県連協議会」が主催し、毎年持ち回りで開催されています。今年度は大阪府生活協同組合連合会が担当しました。奈良県からは、県民暮らし課の澤田真樹主査・保田万里主査、奈良県生協連専務理事、奈良女子大学生協の学生2名が参加しました。本年度のテーマを「つながる力で安心して暮らし続けられる地域社会づくりをめざして」とし、近畿地区生協府県連協議会の岩山会長、大阪府、厚生労働省、日本生協連から挨拶・報告が行われました。

特別講演では、元日本協同組合学会会長で長野県高齢者生協副理事長の田中夏子氏が「地域の暮らしを支えたい」と題して講演されました。田中氏は、誰もが住み慣れた地域で豊かな生活を築くためには「福祉・生きがい・仕事づくり」を一体的に進めることが重要であり、地域課題の解決には社会全体の利益を視野に入れ、多様な人や団体をつなぐ協働基盤づくりが欠かせないと指摘。自治体と連携し「つながる力」を紡ぐ役割を協同組合が担えること、その要となるのは「気かけあう」組織風土であると強調されました。田中氏の講演は12月開催予定の第35回奈良県生協大会でも予定しており、さらなる理解を深めていきたいと考えています。

各生協連からの報告では、奈良女子大学生協学生委員WINDYの水谷佳那さんと永見桜子さんが、被爆・戦後80年を迎えた今年、「Peace Now!奈良2025」の活動について発表しました。学生が自ら調べ、考え、行動しながら10年間活動を継続していることや、平和を自分ごととして捉えて取り組む姿勢に、参加者から多くの共感が寄せられました。



会場の様子



田中夏子氏



能登半島地震



「つながる力で笑顔アクション交流会inいしかわ」に参加しました

2025年9月2日～3日に石川県で開催された「つながる力で笑顔アクション交流会 in いしかわ」に参加しました。この交流会は、2024年に発生した能登半島地震の被災地支援の一環として行われたもので、被災地の現状を学び、長期的な支援のあり方や地域防災への意識の向上を目的としています。

1 日目：交流会での報告と学び

初日は、現地で支援活動を行う団体による報告がありました。

コープいしかわ佐々木智一執行役員からは、震災直後の対応や事業再開後の課題、住民の流出による影響などが語られ、「本当の笑顔はまだ先にある」と被災地の現状が語られました。また、被災地産品の購入を通じた支援の呼びかけもありました。

石川県社協の村田明日香氏および穴水町社協の橋本みすず氏からは、「日常の暮らしに戻るその日まで寄り添う支援」の重要性が語られました。特に18年前の能登半島地震の際に生協職員からかけられた「困っている人が頼ってきてくれるのだからやってあげようよ」という言葉が起点となり、「できないと言わない支援」をするという姿勢が心に残りました。

さらに、被災地NGO協働センターの増島智子氏は阪神淡路大震災の経験を活かした仮設住宅での支援活動を、はままつna net 鈴木まり子氏は被災店舗の漆器を修復して再販売する遠方からの支援の取り組みを紹介されました。平時からの顔の見えるつながりが災害時の支えになることが再認識されました。

グループディスカッションでは、報告を受けて参加者同士が地域防災や支援のあり方について意見を交わし、地域と日頃からつながっておくことの大切さを学びました。



報告するコープいしかわの佐々木智一氏

2 日目：フィールドワークで見た能登の現実

2日目は、門前・輪島地区でフィールドワークが実施されました。

黒島海岸では地盤の隆起で海が干上がる様子を目の当たりにし、自然災害の脅威を実感しました。重蔵神社では、震災当日の状況や炊き出しの取り組みについて話を伺い、地域の初動対応の在り方について学ぶ貴重な機会となりました。

現地の道路や建物の状況からは、復興がまだ道半ばであることを痛感しました。



重蔵(じゅうぞう)神社



黒島海岸

今後の支援に向けて

今回の交流会とフィールドワークを通じて、物資の支援だけでなく、被災者の心に寄り添う精神的な支援が不可欠であると強く感じました。そして、「忘れられることが一番悲しい」という被災地からのメッセージを受け、今後も息の長い支援が必要であることを再認識しました。

奈良県生協連としては、サロン活動など被災者同士の交流を促す取り組みや、能登の文化・産品を応援する企画を継続し、「つながる力」で被災地が未来を描けるよう、きめ細やかな支援を続けていきたいと思っています。



おじゃましました // ならコープ 創立50周年記念式典・祝賀会

ならコープの巻

7月25日奈良ロイヤルホテルで、市民生活協同組合ならコープの「50周年記念式典・祝賀会」が開催されました。行政の方、ならコープの生産者や取引先・友誼団体、全国の友誼生協、協力会社・グループ会社、ならコープ元役員や職員OBや現役員と職員など関係者約210名が出席されました。



1974年4月に設立準備会を66人で結成し、同年7月25日に300人で設立総会が奈良県文化会館で開催されたことから出発しました。

その当時は、公害問題による健康不安やオイルショックをきっかけに物不足による物価高騰で、消費者たちは不安な毎日でした。大学生協の若い人たちや、生活品が手に入りにくく困っていた主婦たちが「くらしを少しでもよくしたい、くらしを守ろう」と10世帯1班の小さな共同購入のグループを作ったのが出発点。安心して食べられる食品を作りたいと思う生産者と共に出発しました。

2025年3月末現在、組合員数約27万8400人。奈良県内の49.9%の世帯が加入しています。

プログラム

■記念式典

- ・開会宣言
- ・主催者挨拶
- ・来賓挨拶
- ・ならコープ50年のあゆみ上映

■祝賀会

- ・鏡開き
- ・乾杯 歓談
- ・祝辞およびスピーチ
- ・奈良学園大学
マーチングバンド部の演奏
- ・謝辞



スピーチの様子



奈良学園大学
マーチングバンド部の演奏

式典では、主催者としてならコープ副理事長の吉田由香さんが、創立者の想いに立ち返り歴史に学びながら進めてきたことや、創立の原点とこれからの50年に向けて目指す姿を確認して、力を合わせて新たに歩んでいきたいという希望を語られました。毛利嘉晃・県地域創造部長、嶋田裕之・日本生活協同組合連合会代表理事副会長、大方豊・ならコープの取引先団体である共栄会会長の3名から祝辞が披露されました。

式典後の祝賀会では鏡開きが行われ、小池隆博・コープきんき事業連合代表理事理事長から祝辞が、逸見啓・ならコープ名誉理事、仲宗根通子・ならコープ元副理事長から「名もなき主婦」と共に生協を立ち上げていったことなどのスピーチがありました。

奈良学園大学マーチングバンド部のダンスと演奏で、会場が大変にぎやかになりました。最後に謝辞としてならコープ理事長の福西啓次さんが、サイバー攻撃を受けた際の様々な困難について振り返り、職員や組合員や行政や取引先や近隣生協などの多くの方の力によって乗り越えられたことへの感謝の想いが熱く語られ締めくくられました。

奈良県生協連 平和の取り組み

～会員生協とともに～

奈良県生協連は、創立以来「平和とよりよい生活のために」を掲げ、核兵器のない平和な世界をめざす取り組みを大切にしてきました。ピースアクションをすすめる会（奈良県生協連・ならコープ・コープ自然派奈良・ならコープ平和の会・奈良県医療福祉生協）が企画・運営する「ピースアクションinなら」などを通じて被爆の実相を学び考え、核兵器廃絶や戦争のない社会をめざし、私たちに何ができるかを交流しながら考えてきました。

また、核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議へ大学生協学生委員を派遣し、2016年からは奈良3大学の生協学生委員が中心となり「Peace Now! 奈良」を開始、現在も継続しています。



Peace Now! 奈良2025

10年目の今年も、6月22日、奈良教育大学の戦跡を会場に「Peace Now! 奈良2025」が開催され、奈良・大阪・滋賀・京都から大学生30人が参加しました。Peace Now! 奈良は、戦争体験者の証言を聞き、戦跡を巡り、参加者同士が語り合うことで平和への理解を深め、「過去を省み未来を見据えて行動できる組合員を育てる」ことを目的に毎年実施されました。

今年のテーマは【平和を考え未来につなぐ～はじめの一歩を踏み出そう～】。平和学習を“自分ごと”として捉えるきっかけとなる一日で、講義やフィールドワーク、意見交流など朝から夕方まで充実したプログラムが行われました。指導・助言されてきた元奈良教育大学附属中学の吉川好胤先生から、「作家 井上ひさしさんの言葉で『難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く』取り組まれていることが素晴らしい」とメッセージがありました。この活動は、8月の他団体平和企画、近畿地区生協・行政合同会議で報告いただきました。12月ピースアクションinなら2025でも報告いただき、若者の関わりをさらに増やせればと考えています。



ピーなら図書館



フィールドワーク

2017年には、被爆者たちが呼びかけた「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを奈良でスタートし、2020年9月までに県内の生協で23,075筆、奈良県知事をはじめ38首長から署名が寄せられました。

さらに「ヒバクシャ一人ひとりの人生を記し、残したい」との思いから、県内のヒバクシャの活動資料や手記の収集・保存活動をすすめる入谷方直氏と連携し、「継承する活動」に取り組んでいます。2019年10月、ならコープの「平和ライブラリー」開設記念企画（奈良県生協連共催）として、当時の被団協事務局次長の濱住治郎氏を迎え、「胎内被爆者としての被爆体験」をテーマにした講演会が開催されました。この取り組みを通じて、これまでつながりのなかった県内の被爆者や、被爆体験の継承活動に取り組む人々が多く参加し、交流を深める機会となりました。

2022年9月には「奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い～（第一集）」を発刊し、奈良県内の小中学校にも配布しました。現在、第2集に向けた活動も進められています。



10年目を迎えた “Peace Now! 奈良”

戦後・被爆80年の年に10年目を迎えた“Peace Now! 奈良”。「学生が主体的に企画運営し、仲間とともに平和について語り合う」取り組みが続いています。「始まったきっかけについて教えてほしい」と大学生協連の方から問われ、10年のあゆみをまとめましたのでその一部をご紹介します。

2015年核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議に奈良県生協連の代表として参加した、奈良教育大生協学生委員の村上泰三さんが、帰国後、「奈良でも何かしよう」と奈良県立大学生協学生委員の山下桃果さんに呼び掛けたのが始まりです。



奈良教育大学の構内に残る「弾薬庫」
実行委員が説明

それを受けて、奈良県生協連に相談がありました。奈良県生協連が、奈良の戦跡に詳しい吉川好胤さん(元奈良教育大学附属中学校教員)、王寺町で機銃掃射にあった鈴木知英子さんを紹介し、企画・運営は生協学生委員(奈良女子大生協・奈良教育大生協・奈良県立大生協)が主体的に行い、必要な経費は奈良県生協連が援助することになりました。

第1回目のPeace Now!奈良は、2016年6月12日に、奈良教育大学・奈良公園・奈良女子大学・奈良県立大学周辺の戦争遺跡を吉川さんに案内してもらい(回を重ねる中で、実行委員自身が調べ説明するようになりました)、その後鈴木知英子さんから体験談を聞きました。そして、「フィールドワークと体験を聞いて感じたことや平和について」グループに分かれて交流しました。

コロナ禍のなかでも、「平和を望む取り組みは止まらない」と奈良県生協連が協力してオンラインシステムを活用し、現地からの中継など工夫して取り組みました。

この間の特徴的な取り組みとして「ピーなら図書館」を2019年から始めました。学生は『平和』という『暗い・重い』などのイメージがあるので『何とかハードルを下げたい』と考えたのが「ピーなら図書館」です。「平和×音楽」「平和×映画」「平和×鉄道」「平和×憲法」…など自分の関心があるテーマを選び、実行委員が調べた資料を見て、同じ記事を読んだ人同士での意見交流、次に違う記事を読んだ人同士で交流し平和についての思いを語り合いました。(吉川先生は毎回参加していただいています。最近では、県内の地域生協の組合員や他府県の大学生協学生委員も参加しています)

10年目の今年は6月22日に、①見て、触れて、聴いて、他者と話すことを通して、平和について考え、自分なりの想いを持つ ②平和について知り、戦争の歴史や現在起こっている問題などへの関心を深め、一人ひとりが身近なテーマとして「考える」ことができるようになることを目的に、開催されました。

なお、今年は、6月14日のPeace Now! 2025奈良リハーサルの日にならコープ「子ども新聞」の子ども記者(小学生・中学生)も一緒に戦跡を回り、実行委員が説明し、『奈良の戦跡を見学しました』の記事づくりに協力しました。

2021年、奈良教育大学で実施された教員養成課程の授業には、81名の学生が参加しました。その中で行われた「平和学習」企画では、「Peace Now! 奈良」の取り組みも参考にいただきました。また、「大学生に学ぼう」をテーマに、ならコープOneピースかふえにて、「Peace Now! 奈良」の活動報告も行いました。

また、2025年10月には、コープ自然派奈良による「平和学習企画～奈良教育大学戦争遺構ツアー」が計画されています。



第13回 なら小地域福祉活動サミット2025

「人がつながり、まちを元気に!」

主催：奈良県社会福祉協議会

奈良県社会福祉協議会と奈良県生協連とは、奈良防災プラットフォームや奈良こども食堂ネットワーク共同事務局やフードバンク活動などを通じ、特にこの数年接点をもつことが多くなりました。生協も地域福祉に目を向け、従来から進めておられる社協の取り組みと連携をとる必要性や可能性が広がり、奈良県生協連は毎年参加し学ばせていただきました。今年は8月30日に開催されました。今年で「なら小地域福祉活動サミット」は13回目。県内外から地域活動者、自治会関係者、民生児童委員、ボランティア、学生、福祉施設、行政、社協などから300名を超える方が参加されました。



ねらい (小地域福祉活動サミット2025冊子から引用)

住み慣れた地域で安心して暮らし続けることは誰もが望むことですが、暮らしの中には様々な困りごとがあり、暮らしづらさを感じることも少なくありません。そのような中、顔の見える身近な地域で住民同士が力を合わせて支え合う小地域福祉活動が県内でも広がり、私たちの暮らしの大きな安心感につながっています。地域活動のありようが少しずつ変わってきている今だからこそ、身近な地域で愉しくつながる方策を考えるため、このような活動をしている方々が一堂に会しその取り組みや工夫を学び合い、より一層元気な活動が広がることを目的に開催されました。

基調
講演

『よきこと』をつなげる、『よき存在』になる ～ちいさな社会を愉しく生きるススメ～

講師：牧野 篤氏 (大正大学教授/東京大学名誉教授)

Well-being (ウェル・ビーイング) とは個人や社会のよい状態のことだが、自分だけが幸せならばいいのか。全ての人が幸せになる社会を作らないといけない。それには条件を社会が作っておかないといけない。「ふるさと」をどう作るのかということにもなる。よき状態からよき存在 (= 社会に位置づく自己という認識) になるには、Compassion (共感) を発揮して『『よきこと』をしなくてはならない状態』に人々がなること。それにより社会そのものがWell-beingになる。要求するだけでなく与え合う事で自ら動く「自治」となる。



基調講演 牧野篤氏

社会基盤・人間関係を耕す営みとしての社会教育こそが社会を牽引する駆動力の中核の営みであり、人生100年・複雑化する社会で生涯学び続ける力をつけることが重要。人生最後の一時期をどう過ごすのか。この社会での役割を十全に果たし満足して最期を迎えることが大切。小学生時代にボランティアの経験を積んだ人は社会貢献意識が高まるという。他者のために行動することを好み、他人への協力を好み、誇りを持つ傾向がある。人は共に寄り添う事でコミュニティを保ち続けることができる。語り合って関わり合って共にすることから当事者になる。世田谷区の空き家開放の事例紹介があり、PDCAの方法論を変えて「楽しい事」を「やってみる」こと。評価をせず多様に行動を起こしている。小さな幸せを重ねる社会を「ふるさと」にし、つなげて巻き込んで、Do-er (やる人) を作っていく。Be-ingであることでDo-er (やる人・つくる人) になる。『よきこと』をつなげ次世代にかかわることで老年超越が起これば『よき存在』となり『よきこと』の連鎖が起これば「よき社会」が生まれる。その基盤となるのが「ふるさと」

スケジュール

- | | |
|-------------|---------------------------|
| 10:00 | 開会 |
| 10:15～11:30 | 基調講演 |
| 11:30～13:00 | 休憩 |
| 13:00～16:00 | |
| 第1分科会 | 地域のご縁を再確認! |
| 第2分科会 | 私発で始まる地域づくりの可能性 |
| 第3分科会 | 「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせを地域でつくる |
| 第4分科会 | 福祉視点にとらわれない共創実践 |



第4分科会の様子

奈良こども食堂ネットワーク会員 総会・交流会



7月1日「奈良こども食堂ネットワーク会員総会・交流会」が大和信用金庫八木支店 3階第1会議室で、こども食堂ネットワーク会員および関係者約90名が集まり開催しました。奈良県社協の岡本晴子さんが奈良こども食堂ネットワークの世話役団体の紹介をし、奈良県内の子ども食堂の数や活動の支援の輪の広がりや、過去・現在の実態調査結果を踏まえて、未来につながるようネットワークとして取り組みたいことなどの報告を行いました。

ミニ講座

こども食堂の 衛生管理



奈良県薬務衛生課の上山江美子さんによる衛生管理全般についてのミニ講座が行われ、食の安全を守るための基本的な知識が紹介されました。

続いて、奈良県中和保健所の喜多哲也さんからは「食品衛生講習」と題し、実際の事例を交えた具体的な対策が紹介されました。参加者の皆さんは熱心に耳を傾け、今後の活動に役立てようと真剣な表情で受講していました。



上山江美子さん・喜多哲也さん

ワールドカフェ

今さら聞けない！ 今だから聞きたい！ こども食堂のコト



奈良県社会福祉協議会の黒田夏加さんの説明・進行で8つのテーマに沿って20分ずつ3回グループが入れ替わりながら意見交換しました。

- ・寄付や協力の受け方やお付き合いの仕方
- ・こども食堂で一番大切にしていること
- ・食品衛生の周知
- ・参加しやすくするために
(予約や広報など)
- ・活動を支える財源
- ・気になるお子さんとの関わり方
- ・地域や関係団体との連携
- ・参加ボランティアさん・仲間の集め方



各グループ活発な意見交換がされ今後の活動へのヒントとチカラを相互に受け取って頂ける機会となりました。

交流会の最後に、奈良県こども家庭課より、令和7年度のこども食堂に対する支援策や補助金情報、奈良県ヤングケアラー相談窓口の案内がありました。

なら消費者ねっとが「奈良県消費生活フェア」に参加しました



貯金箱づくり

多くの方々に消費者問題について理解を深めていただく取り組みとして、7月26日イオンモールなら登美ヶ丘3階ならとみコート横で「奈良県消費生活フェア」が開催されました。奈良県、奈良県警、奈良県金融広報委員会、奈良県消費生活相談員連絡会、奈良女子大学消費者問題研究会 BEACS、非営利活動法人なら消費者ねっとが連携し、消費生活に関する様々な情報をわかりやすくお伝えしました。今回はせんとくんとナポ君（奈良県警公式キャラクター）が参加、来場者の皆さんと記念撮影をするなど、にぎやかに交流を楽しみました。

BEACSさんは、「啓発紙芝居」や「消費生活かるた」を通じて、年齢を問わず誰もが消費者問題を楽しく学べる場を提供、なら消費者ねっとは、子どもたちと一緒に貯金箱を作ることで、金銭管理や消費について考えるきっかけを作りました。



消費生活かるた



奈良県警

県連日誌

7月

- 1日(火) 奈良こども食堂ネットワーク総会
- 3日(木) 憲法学習会実行委員会、ピースアクションをすすめる会
- 5日(土) 第103回国際協同組合デー中央集会
- 11日(金) 関西消費者団体連絡懇談会・関電決算説明会
- 12日(土)・13日(日) 能登半島被災地支援サロン活動参加
- 14日(月) JCA 連続シンポジウム
- 16日(水) 第30回奈良県協同組合デーのつどい
- 17日(木) 奈良県生協連・第2回理事会、歓送迎会
- 18日(金) 近畿地区生協府県連協議会(和歌山)
- 21日(月) 奈良県のヒバクシャの声手記集編集委員会
- 23日(水) 奈良県消費者基本計画策定部会、倉本芽美氏打ち合わせ
- 24日(木) 関西地連運営委員会・県連推進会議、なら消費者ねっと理事会

- 25日(金) ならコープ50周年記念式典
- 26日(土) なら消費者ねっと・奈良県消費生活フェア
- 28日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会
- 29日(火) 大阪府生協連との能登支援事務局会議、第1回奈良防災プラットフォーム連絡会
- 30日(水) 若者応援プロジェクト奈良・奈良教育大フードパントリー
- 30日(水) 都道府県協同組合連携プロジェクト別会議
- 31日(木) DWAT学習会、奈良県労済生協総代会

8月

- 2日(土) 県内災害ボランティア研修(県社協)
- 4日(月) きょうされん実行委員会
- 6日(水) 生協組合員理事交流会実行委員会
- 11日(月) ピースアクションをすすめる会
- 12日(火) 県社協との実務者協議
- 20日(水) 第36回近畿地区生協・行政合同会議(大阪)
- 23日(土) 協同福祉会平和の集い
- 25日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会

- 28日(木) 奈良県社協との協議、なら消費者ねっと理事会
- 30日(土) なら小地域福祉活動サミット

9月

- 1日(月) 奈良防災プラットフォーム連絡会
- 2日(火)・3日(水) 2025年度能登支援つながる力で能登を笑顔にアクション参加
- 4日(木) 奈良県消費生活審議会
- 6日(土)・7日(日) 能登半島地震被災地支援サロン活動開催
- 8日(月) 生協組合員理事交流会実行委員会
- 10日(水) 日本協同組合連携機構来訪
- 12日(金) ピースアクションをすすめる会
- 18日(木) 奈良県生協連・理事会、第36期臨時総会、生協理事長交流会
- 19日(金)・20日(土) 全国県連活動交流会
- 20日(土) 瀧川潔さんを偲ぶ会
- 22日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会
- 25日(木) 関西地連運営委員会、なら消費者ねっと理事会
- 27日(土) 適格消費者団体連絡協議会
- 29日(月) 被災者支援コーディネーター研修
- 30日(火) 大阪府生協連能登支援事務局会議、ボランティア協議(社協)

お知らせ

第35回奈良県生協大会 IYC2025 協同組合の強み

- 基調講演** 田中 夏子氏(元日本協同組合学会会長/長野県高齢者生協副理事長)
- 日時** 12月13日(土) 13:30~16:00(会場13:00)
- 場所** 奈良県商工会議所 大ホール(奈良市西大寺南町8番33号)
- 参加対象** 会員生協組合員及び役職員、自治体職員、諸団体、県民など
- 申し込み** 奈良県生活協同組合連合会
- 電話** 0742-34-3535(月曜日から金曜日10:00~17:00)

着任のごあいさつ

2025年7月から奈良県生活協同組合連合会の事務局に就任いたしました。皆さまの暮らしに寄り添い、笑顔あふれる奈良の地域共生社会を築くお手伝いができるよう、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局担当 小原 幸典



編集後記

9月・10月・11月開催の能登半島地震被災地は依然として想像以上に厳しい。たこやきサロン活動はひと時でも笑顔が見られた。大学生10人の参加に心強さと感謝。(武)

「地球温暖化から地球沸騰化の時代が到来した」「四季」から「二季」の時代へ」「異常気象が「異常」ではなくなった」「冬季五輪が開催できなくなる?」…決して「過言」でも「誇張」でもないときどきと感じた夏でした。(和)

温暖化がとまらない! NPOとして温暖化防止活動を始めてから23年。しかし悪いシナリオをまっしぐら。来年の夏はもっと暑い?? 何とかしないと、と焦ってばかり。(順)

9月初旬の一週間で、私は研修とサロン活動で二度能登を訪れました。道路の復旧が進んでいるとはいえ、完全な復興にはまだまだ時間がかかることをあらためて痛感しました。簡単に行ける場所ではないからこそ、私たちができる支援を続けていく必要があると強く感じています。あらためて息の長い支援を続けていきたいと思っています。(幸)

関西万博だ! 阪神優勝だ! と騒いでいるうちに、秋がやってきました。今度は秋だ! 紅葉だ! と騒いでいると冬になっているんだろ。(佳)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043

URL <https://www.narakenren.coop/>